

例会記事

四月例会 昭和六十年四月二十七日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、(医家追薦) 没後一〇〇年にあたる人びと

・森沢園の生涯とその業績

・清水郁太郎について

小曾戸 洋

石原 力

一、『神宮醫方史』こぼれ話

久志本 常孝

五月例会 第八十六回日本医史学会総会に替えました。

六月例会 昭和六十年六月二十二日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、真言密教とタントラ

杉田 暉道

一、援進医会と「医談」

富士川 英郎

七月例会 昭和六十年七月二十七日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、アーユルヴェーダにおける予防歯科的記述

—南海寄歸内法伝の記述と比較して— 山下 勤

法華経におけるアーユルヴェーダの記述—特に化城喻品にお

ける— 中田 直道

一、日本医学校と女性医師の先駆者たち—日之出會の人びと

横川 弘蔵

例会講演要旨

『神宮醫方史』こぼれ話

久志本 常孝

この二月に私は、それまで二十余年にわたってぼつぼつ集めた史料をもとに、表題のような一書を世に出した。そこにいたる経緯など、若干の事柄について述べよう。

一、題名のゆえん

結論からいうと、神宮医方とは、世にいう久志本流医術の別称と考えてよい。

久志本流医術の始祖常任は、平安時代の伊勢神宮の神宮であったが、同時に彼は大変医術にも堪能であった。

彼の兄常親(外宮の長官)が眩暈の病を患ったとき、京都から医師を招いたが、病は平癒したものの、薬の中に混じていた鹿丸のため、常親は百日の穢となり、神務が著しく妨げられた。

そこで常任は不浄な薬種や、神宮禁忌の薬種を除いた薬方で行う医術の体系を考案した。

このことは白河院の大きに嘉せられるところとなり、永保年中(一一〇八一—一一〇八三)勅宣により、永代神宮の医官に定められた。これを世に神宮医と称し、そのような固有名詞ができたのである。

時代は下がって室町時代に、常光という優れた神宮医があらわれ、その名は勢、尾、信の三州に轟いた。彼は名声を慕ってく